

柔道しずおか

第4号

平成12年2月 静岡県柔道協会発行

事務局 〒421-2306 静岡市平野1-1 永田重郎
TEL <054>293-2035 FAX <054>293-2335

巻頭言 NEW//わかふじ国体成功にむけて

柔道の本道をめざして

静岡県柔道協会会長 高柳喜一

このたびは六代目会長に推薦いただきましてありがとうございます。

柔道協会創立50周年の素晴らしい偉業を残された尾崎・大蝶・西田・山口・望月歴代会長と、多くの先輩の諸先生に感謝するとともに、新会長として重い責任を痛感しております。

これからは、三地区幹事長・副会長を中心に、各地区の情勢を吸収して盛り上げていきたいと考えています。

昨今は少子化社会を迎え、スポーツに親しむ少年も年毎に減少してきております。

かつてはだれもが柔道を修行しているといえば、「礼儀正しい、人格も素晴らしい、責任感があり頼もしい、身体もりっぱだ」と周囲から尊敬され、将来社会においても非常に期待されたものでした。



果たして、今日においても同じことが言えるでしょうか。大いに反省するのを感じます。

嘉納治五郎師範の説かれる文武両道の精神こそ本道であり、精力善用・自他共栄を離れては柔道をやる価値はないと思います。

平成11年10月1日、講道館で

行われた世界選手権の壮行会の席上で横地先生が、たった一言「姿勢が悪い」と選手たちに叱咤激励されていたことが強く印象に残っております。

柔道は姿勢が悪ければ、絶対に一本勝ちできる技は出ない。姿勢を良くして堂々と戦つてこいと諭されたのだと思います。

バーミンガムにおいて、日本選手は大健闘。金8・銀2・銅1を獲得。篠原・井上・吉田・阿武などが、残り僅かのところで一本勝ちしているけれど、横地先生の一言が頭の中にあつたにちがいないと感じました。

国際柔道が、競技柔道に陥り、ポイントや反則の積み重ねで勝敗が決められ、勝つことだけが先行され、修行という言葉も遠くなり、人間的にもスケールが小さくなってきております。堂々と大技を使い、一本勝ちのことができる、さわやかな試合をするよう導いていきたいと思えます。

学校五日制や部活動の選択制などの影響により、ますますスポーツに親しむ少年が減少し、頭でっかちで、五体満足の青少年の育成が困難になってきております。まさにこういう時にこそ、協会の皆さんの協力が必要

になってくると思います。

町道場や柔道教室、地域スポーツ振興への行政と自治会の連携、各競技組織毎の強化策、少年団活動などを通じて、柔道を習つてよかつたという子供たちが少しでも多く出てくるようご指導願いたい。

そして、来たる平成15年の国体のスローガンである「がんばるが好き」を目標に、選手指導者ともに助け合い、励まし合つていつてほしいと思えます。特に、底辺を支え、一番ご苦労されている道場連盟や、中体連の先生方の中からどしどしA級ライセンス審判員を推挙し、盛り上げていきたいと考えています。

社会情勢はバブル崩壊で、各企業もリストラを余儀なくされ、私達が期待している選手養成も厳しくなっております。また、警察官、教員枠での選手強化も思うようにはいかない現状です。

こうした困難な状況下にあつて、なによりもお願いしたいのは、協会役員の皆さんの絶大なご支援、ご協力です。目標達成に向けて、共にがんばりましょう。

平成11年をふり返って 高柳新体制スタート

望月映英氏は名誉会長に

平成11年5月16日(日)、静岡市中央体育館大会議室で行われた理事評議員会において、会長改選が行われ、新会長に西部地区幹事長、県協会副会長の高柳喜一氏を満場一致で選出。平成15年の静岡国体成功に向けて新体制をもってスタートすることになった。

勇退された望月映英前会長は、平成2年より第五代会長として9年の長きにわたりその重責を全うされた。そのご労苦心よりの感謝を捧げ、偉大な功績に改めて敬意を表する次第である。今後は、名誉会長として後身を温かく、時には厳しく見守りつづけてくださるようお願いしたい。

6月12日(土)、沼津キャッスル・ホテルにて、「望月映英前会長に感謝を捧げる会」を催し、多数の協会役員、道場関係者らが集い、心のこもった会となったと思う。

また、10月9日(土)には、浜松名鉄ホテルで「高柳新会長就任祝賀会」を開き、浜北市長、長谷川正榮氏をはじめ来賓多数のご臨席を賜り、新会長よりお礼の言葉と力強い決意が述べられ、新しい門出とすることができた。

NEW!!わかふじ国体めざせ

第4回三三地区対抗

第4回静岡県三地区対抗団体柔道大会が、平成11年11月23日

浜北市民体育館において行われた。この大会は2003年のNEW!!わかふじ国体を照準に入れた少年選手たちの強化を目的として始まったもので、主催は県柔協、浜北市体育協会、浜北ライオンズクラブ、主管は浜北市柔道協会、特別協賛は公益信託チヨタ遠越準一文化振興基金、静岡新聞・SBS静岡放送によるものである。

今回より、小学生男女、また浜北選抜チームが加わり、一層の盛り上がりを見せられた。結果と選手一覧を掲げる。

地区	順位	選手名	所属
〔東部地区〕	1位	高橋真史	田方農業
	2位	芦澤真史	沼津学園
	3位	増田圭省	沼津学園
〔中部地区〕	1位	神谷賢	御殿場西
	2位	遠藤雄介	富士宮北
	3位	小松裕樹	富士宮北
〔西部地区〕	1位	堀内久美子	三島南
	2位	小林由季	富士農業
	3位	加藤陽子	富士宮西
〔高校男子〕	1位	石原洋介	沼津三
	2位	清水雄二	富士根南
	3位	足立和紀	原
〔高校女子〕	1位	真野洋光	沼津三
	2位	桑原大樹	原
	3位	田中志織	富士宮一
〔中学男子〕	1位	梅原友佳	葦山
	2位	宮下桃花	葦山
	3位	遠藤昌美	富士宮一
〔中学女子〕	1位	栗原真琴	富士宮一
	2位	朝香拓巳	友愛道場
	3位	朝香拓巳	友愛道場
〔小学男子〕	1位	川口洋樹	三島柔道会
	2位	石川敬斗	沼津柔道会
	3位	三田剛也	三島柔道会
〔小学女子〕	1位	平井勝	神士館
	2位	大賀美衣	三島柔道会
	3位	中川琴乃	長泉柔道会
〔総合〕	1位	杉山友美子	大仁柔道会
	2位	正治綾子	三島柔道会
	3位	杉山佳奈弥	三島柔道会
〔高校男子〕	1位	相良健太	藤枝明誠
	2位	野中朗浩	静岡学園
	3位	名生宏	東海大翔洋
〔高校女子〕	1位	山崎美和子	東海大翔洋
	2位	杉山まゆ美	東海大翔洋
	3位	川口有紀	庵原
〔中学男子〕	1位	永田諒	静岡学園
	2位	菅原慶	龍上
	3位	山下純輝	静岡学園
〔中学女子〕	1位	山下貴	大井川
	2位	市川英士	大里
	3位	小田巻優季	賤機
〔浜北地区〕	1位	福屋佳奈	清水市体育協会
	2位	杉山希美	青島
	3位	澤口友紀	藤枝柔道倶楽部
〔西部男子〕	1位	坪山勇太	浜北北部
	2位	氏原龍晶	浜北北部
	3位	鈴木豪	浜名
〔西部女子〕	1位	鈴木麻理恵	北浜
	2位	太田真樹	浜名
	3位	緒方智美	浜名
〔北浜〕	1位	森下真衣	北浜
	2位	村松香澄	北浜
	3位	森下真衣	北浜
〔清水柔専塾〕	1位	萩原絵里	清水柔専塾
	2位	松山彰吾	浜松商業
	3位	星野祐樹	浜松商業

瀧井・池上八段昇段 県内八段12名、七段58名 六段148名に —H 12.1 現在—

平成11年4月30日付をもって、県内に新しい八段が誕生した。

一昨年には、安齋悦雄、高田勝之副会長がそろって昇段、今回の瀧井康次郎中部地区幹事長・副会長及び池上泰司理事の昇段により、県内の八段は12名となった。

平成11年9月11日(土)午後6時、静岡市ベルアリージュにおいて、「瀧井・池上両先生八段昇段祝賀会」が開かれ、百余名の柔道関係者が集い、両先生を祝福し、奥様の内助の功を讃えて花束が贈られた。

主催者を代表して、安齋理事長より挨拶があり、かけつけた高柳会長より祝辞が述べられ、森本登美夫顧問より証書の伝達が行われた。

永田事務局長よりお二人の紹介があり、改めて両先生の偉大な足跡に感じ入ることができた。

瀧井康次郎先生は、現在、県柔協の副会長、中部地区幹事長として活躍中であることは周知のとおりであるが、静岡市生まれ、静岡高出身、静岡柔道倶楽部で大蝶、西田両先生らに師事。家業のかたわら滝井道場を開設、後進の指導にも当たられ、特に「形」の権威者として、平

成11年度全日本柔道形競技大会の「古式の形」審査員となられている。温厚誠実なお人柄により広く人望を集められている。

池上泰司先生は、現在、県柔協理事、中部地区副主査として活躍。清水市生まれ、静岡工出身、錬風館の結城源心先生に師事、刑務官さらには日本鋼管の

代表選手として勇名を馳せ、名実ともに地元静岡の雄として、たびたび全日本選手権大会に出場している。今日も清水市体協柔道部理事長として青少年の育成に努めている。豪放磊落な強者の面かげは今なお健在である。

ちなみに、県内の高段者を左に掲げてみよう。(物故者は除く、講道館高段者名簿による)

八段 12名

安齋悦雄・天野芳郎・池上泰司
稲葉茂男・鎌田保之・酒井初雄
高田勝之・瀧井康次郎・望月映英
望月 稔・森本登美夫・安原精二

七段 58名

赤池進司・飯田 稔・石川宗平
石川裕章・今泉信明・岩崎勝壽
岩本猪之・大石一男・大村俊雄
加藤一郎・風岡儀一・金子尚史
兼子 護・川嶋敏秀・川中邦夫
北澤義隆・久保田昭雄

佐々木秀男・佐野忠雄・佐野通雄
鈴木金太郎・田代浩一・田中秀幸
高田和夫・高田 徹・高原富夫
高柳喜一・内藤克己・中西儀久
仲野勇作・永田重郎・永野哲夫
西島温行・根本谷信一・根来礎夫
野田昭一・橋本五十夫・早川六二
福村忠史・福村直才・藤原寛次
堀井一夫・前田伸太郎・増田 保
松本 忍・深山栄一・御獄知昭
水野 進・村田完治・望月秋男
八木 卓・山口友孝・山崎陸雄
山田智鶴・吉川博智・吉田 修
和久田守男・渡辺泰吉

六段 148名

青木鶴佳・青木和夫・赤沢昭則
秋山忠七郎・渥美直久・荒木和幸
栗田勝晴・井出芳則・伊藤三四郎
伊藤篤志・伊藤武治・池田武雄
池田幸雄・石川 盛・石黒金次
石田一二三・石田 隆・一瀬 誠
磯部正博・稲木寛男・岩上寛二
岩本 忍・宇佐美博之・上原則生
内海隆治・海野鶴一・海野良信
大村勝利・岡野光夫・小笠原淳
奥村 仁・長田五郎・刑部小平
小野瀬康行・垣野明彦・笠原孝聡
梶原和洋・片瀬重雄・勝間田博
加藤裕司・金指邦浩・亀永豊治
川口良男・河辺興機・木内孝教
北川輝彦・北村光雄・工藤哲郎
熊谷幸洋・栗原孝雄・榎林行雄
黒田英樹・小出裕一・神山 巖

小林賢治・小林弘道・今野景一
今野伸俊・斉藤圭司・斉藤 剛
斉藤 実・酒井義之・作川武禱
左口直人・佐々木義孝・佐藤有宏
佐藤信弥・佐野武雄・佐野 始
佐野光弘・柴田信義・志水義之
清水録郎・下村石蔵・白井康二
杉本昌司・杉本道治・鈴木宅治
須田直之・芹澤光一・芹澤正司郎
臺 敏之・高田 厚・高柳竹一
高山 壽・竹島政幸・館山紀生
茶山和巳・土屋弥生・坪山龍夫
津村健次・遠井健治・殿岡崇廉
富田偉沙生・中村寿一・永田親則
西島外美雄・西部形外・野末博夫
橋本 章・長谷川雅弘・樋川 昭
広瀬次雄・藤野公一・堀川正行
増岡秋男・増田佳明・増山照一郎
松浦光二・松永芳実・松本隆夫
間部 卓・間宮幸男・三尾 徳
水口 裕・水嶋武雄・宮本達夫
武藤友芳・村上 繁・村上大造
村木忠勝・村瀬芳孝・村松良治
室伏 操・望月克己・望月優映
望月敏男・森下 数・八木清志
山縣哲夫・山口義四男・山田耕司
山梨公良・山本次郎・山本 稔
山本博章・横山敏登・吉村保男
芳村憲次・米山安基夫・渡辺和秀
渡辺篤司・渡辺成澄・渡辺信夫
渡辺芳郎・渡辺格一・渡辺達也
白井恵子

女子四段

— 第54回 くまもと未来国体 —

この無念を明日に生かせ

少年男子・成年1回戦敗退

平成11年10月24日(日)〜26日(火)、九州は火の国、熊本県山鹿市立総合体育館で、第54回国体柔道競技が行われた。

山鹿市は、熊本市よりバスで1時間30分、山鹿灯籠で有名なひなびた湯の町。しかし、柔道熱は昔からすごいという。名人木村政彦もこの出身とか。老若男女を問わず、町ぐるみで選手団を歓迎してくれた。

わが静岡県チームは、高柳会長、飯田稔総監督を筆頭に、22日に現地入り。メンバーは次の通り。

- | | | | | | | | | | |
|---------------------|------------------------|------------------------|------------------------|--|-------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------------|
| 監督 六段 間宮幸男
(興誠高) | 副将 初段 野中朗浩
(静岡学園高) | 中堅 二段 野村祐介
(東海大翔洋高) | 次鋒 二段 日下徹朗
(東海大翔洋高) | 先鋒 初段 小澤庸佑
(東海大翔洋高) | 監督 七段 石川裕章
(石川接骨院) | 大將 二段 紅林直樹
(株三協建運) | | | |
| 副将 六段 小野瀬康介
(県警) | 中堅 四段 石川哲也
(株横浜そごう) | 次鋒 三段 井川清隆
(総合警備保障) | 先鋒 三段 渡部成也
(国際武道大) | 第一日目、24日8時20分より開会式。満員の観客が見守る中、純白の柔道衣に黒帯をきりりと締めた選手団が続々と入場。その堂々たる雄姿に万雷の拍手。嘉納行光会長は、先の世界選手権での日本代表の活躍ぶりを高く評価「堂々と一本を取る本来の講道館柔道の魅力を世界の人々に示してくれた」として、篠原、井上、吉田、田村、阿武、前田、橋崎選手を特別表彰した。まずは、少年男子一回戦。本県チームは、愛媛と対戦、 | 先 小澤 ー× ②山本大將
(宇和島東) | 次 日下 ー× ①山内洋平
(愛光高) | 中 野村△ ー ①川向敦支
(新田高) | 副 野中△ ー ①清家仁宏
(新田高) | 大 土井△ 合わせ技
①宮本章吾
(宇和島東) |



健闘する井川選手

0対3と完敗、一回戦敗退となった。

先鋒小澤健闘。まずは引き分け、期待の次鋒日下も果敢に攻めるも山内の堅守に、ついにポイントを取れず、勝負師中堅野村にタツチ。野村も積極的に出て、終始好

勢ながら、今一つ決定打が出ず、試合終了直前、不覚にも川向の捨て身の足技に、前受身で逃るも、これが「有効！」まさかの一敗となってしまう。こうなると、流れは愛媛側へいってしまう。副将野中、大將土井も焦ったところを逆に巧み



に衝かれて敗退、無念の涙を呑んだ。
 間宮監督は、「相手のペースで戦ってしまい、何もできなかった。完敗です。ビデオなどで相手を研究し尽くした。減量もうまくいったので、油断さえしなければ勝てる、特に後半が勝負の分かれ目と分析していた。だが、体が動かなかった。相手に負けたというより、独特の雰囲気やられたという感じ」

で、プレッシャーは予想以上だった。」
 若いだけに、波に乗れば敵なし。一つ落ちこめば惨敗と、少年チームの難しさをつくづく思いしらされた結果だった。
 翌25日は成年女子・少年女子に続いて、昼過ぎより成年男子。本県チームは地元熊本と一回戦対決。一番最後の試合となり、午後4時過ぎに登場した。
 先 渡部 △―○ ④木村勝範 (合志中)
 次 井川 × ④松岡静也 (県盲学)
 中 石川 × ⑤原口真次 (松橋西養)
 副 小野瀬 △―○ ③小嶋新太 (総合警備)
 大 紅林 △―○ ③荒木革志 (近畿大)
 先鋒戦は役者が一枚上手か、見事な巴投げで一本取られる。次鋒井川、中堅石川も実力派の期待選手。しかし、相手もさる者、結局は引き分けに終わる。副将は、最も有力とされた中央大現役の大村選手がケガによる欠場。代わって37歳のベテラン小野瀬の登場、顔を紅潮させての大奮闘も、小嶋のパワーに屈してしまう。大将紅林の善戦も空しく、3対0と完敗を喫し

てしまった。
 終了後、石川監督は、「大村の欠場がなんといっても大きな誤算となってしまった。前三つは、巧者を配しているの、うまくいけばリードしている」と予想したが、地元の大声援の前に圧倒された感じだ。本県の場合、やはり重量陣の充実をどうしていくかが勝負の分かれ目、大学や実業団の現役バリバリを起用しなければ、とても勝ち目はありません」。
 今後の強化策に大きな課題を残した年といえよう。



高校選手権
 浜商21年ぶり優勝

平成12年1月三十日(日)、静岡市北部体育館で行われた、第22回全国高等学校柔道選手権静岡大会男子団体の部で、浜松商業が、決勝で静岡学園を破り、21年ぶりに優勝、全国大会へと駒を進めた。

〈決勝〉
 浜松商業2―0静岡学園
 (先鋒) 二北島寿人 × 初青木真也



- (次鋒) 二仁井田政宏 × 初正治良太 (中堅)
- 二星野祐樹 ○ 初野中朗浩 (副将)
- 二松山彰吾 ○ 初山下悟史 (大将)
- 二新村誠也 × 初吉澤伸悟
- 優勝者は次の通り
- 〈男子無差別級〉 野中朗浩 (静学)
- (女子)
- 48 kg級 山崎樹里 (藤南女)
- 52 kg級 風間美佳 (市立沼津)
- 57 kg級 二俣啓子 (市立沼津)
- 63 kg級 大石千里 (常葉橋)
- 70 kg級 杉山まゆ美 (東海大翔洋)
- 78 kg級 山崎美和子 (東海大翔洋)
- 78 kg超級 中村真理 (天竜林)

柔道祭

平成11年5月2日(日) 静岡市北部体育館アリーナで、第41回静岡県柔道祭が開かれた。

試合に先だって、協会表彰があり、

〈特別功労者〉敬称略・順不同

六段 鈴木和雄

〈功労者〉

七段 今泉信明

六段 増岡秋男 山本博章

〃 茶山和巳 黒田英樹

〃 上原則生 酒井義之

五段 鈴木克美

四段 坪内仁志

参段 窪野泰久

各氏が表彰の栄に浴した。

また、特別表彰として、

第47回全国都道府県対抗青年柔道大会で静岡県代表として、準優勝をみごと勝ち取った浜松市チーム全員に贈られた。

監督 外山悟一

大将 杉山 崇

副将 古橋 学

中堅 加藤 剛

次鋒 新村 寛

先鋒 樋口 正

引き続き、形の演武(本年度は「極の形」)が競われた。

(東部) (取) 五段 小笠原淳

(受) 五段 金指邦浩

(中部) (取) 六段 小野瀬康行

(受) 六段 渡辺達也

(西部) (取) 六段 中村寿一

(受) 六段 白井康二

結果、小野瀬、渡辺組が県代表権を獲得、全国大会に出場することになった。

試合の結果は次のとおり。

(小学校の部)

1位 新居町柔道少年団

2位 福田柔道クラブ

3位 育成館 三島柔道会

(中学校の部)

1位 静岡学園中

2位 原中

3位 沼津三中 大富中

(高校の部)

1位 東海大翔洋高

2位 浜松商高

3位 静岡学園高・浜北西高

(一般の部)

1位 総合警備保障静岡

2位 焼津誠道館

3位 新居町体協

静岡柔道倶楽部

(中学女子個人の部)

1位 岩谷巴海(浜名中)

2位 栗原真琴(富士宮一中)

3位 庄司奈々子

(三島柔道会)

3位 萩原真理子(清水柔専)

(52kg級)

1位 諸星 舞(服織中)

2位 澤口友紀(藤枝柔俱)

3位 佐野由美子(賤機中)

3位 高橋 華(観山中)

(56kg級)

1位 海野友美(藤枝柔俱)

2位 土佐谷実佳

(沼津柔道会)

3位 竹村佳那子(大仁中)

3位 磯部育美(鹿玉中)

(56kg超級)

1位 永手直美(福田中)

2位 岡本礼子(浜北体協)

3位 大畑侑加(長田西中)

3位 坂倉香菜美(静浦中)

(優秀選手)

渡辺光希(新居町柔小)

大石 巧(福田柔ク)

(中学生)

板垣耕太(静岡学園中)

河野文彦(原中)

(高校生)

土井陽介(東海大翔洋高)

山崎大介(浜松商高)

(一般)

井川清隆(総合警備保障)

高山道孝(焼津誠道館)

井川清隆(総合警備保障)

第53回静岡県民スポーツ祭柔道競技は、11月14日(日)静岡市中央体育館で行われた。

市対抗では

1位 静岡市 10点

2位 藤枝市 8点

3位 浜北市 7点

町民対抗では

1位 福田町 10点

2位 大井川町 7.5点

2位 新居町 7.5点

試合結果は次の通り

(成年の部・市対抗)

1位 総合警備保障静岡

2位 富士市柔道会

3位 焼津誠道館

3位 総合警備保障浜松

(成年の部・町村対抗)

1位 菊池建設興業(大仁)

2位 福田柔道クラブ

3位 長泉町柔道会

3位 豊田柔道クラブ

(少年A男子・市対抗)

1位 静岡学園高

2位 東海大翔洋高(清水)

3位 沼津学園高

3位 藤枝明誠高

(少年A男子・町村対抗)

1位 大井川高

2位 小山高

3位 気賀高

3位 横須賀高

(少年A女子・市対抗)

1位 東海大翔洋高(清水)

2位 天竜林業高

3位 浜北西高

3位 藤枝南高

(少年A女子・町村対抗)

1位 庵原高 3位 土肥高

2位 大井川高 3位 気賀高

(少年B男子・市対抗)

1位 静岡学園中

2位 田代道場(沼津)

3位 藤枝柔道倶楽部

3位 浜北柔道スポ少

(少年B男子・町村対抗)

1位 新居中 3位 葦山中

2位 大井川中 3位 浜岡中

(少年B女子・市対抗)

1位 浜北柔道スポ少

2位 富士宮二中

3位 城山中(磐田)

3位 藤枝柔道倶楽部

(少年B女子・町村対抗)

1位 福田柔道クラブ

2位 葦山中

3位 大仁中・本川根中

(少年C・市対抗)

1位 三島柔道会

2位 育成館(浜松)

3位 藤枝柔道倶楽部

(少年C・町村対抗)

1位 新居町柔道少年団

2位 引佐町土道会

3位 葦山町柔道教室

3位 福田柔道クラブ

〈名誉顧問〉

九段 西田亀先生逝去

93歳天寿を全う



平成11年9月16日(木)、第三代会長・名誉顧問、西田亀先生(享年九十三歳)が逝去された。20日(月)、静岡市平安ホールにて、しめやかに葬儀が行われ、大矢喜久雄全柔連副会長をはじめ、県内外の柔道関係者多数が参列した。

静岡県柔道協会を代表して、高柳会長が、また、県警柔道を代表して安齊理事長が、それぞれ弔辞を奉読した。

先生は、明治40年9月5日、武道隆盛な岡山県に生まれ、名人金光弥一兵衛を師と仰ぎ、玄武館中央道場の門に入り、以来柔道家としての行路を一筋に生き抜かれました。昭和13年の全日本柔道選手権大会で準決勝に進出されるなど、幾多の輝かしい戦歴を残されています。

昭和9年、請われて静岡県警察柔道師範となられ、昭和48年まで39年間の長きにわたり指導され、その薫陶を受けた警察官

は万余に及び、県警名誉師範第一号の称号を受けられています。

一方、県柔道協会においては、故大蝶美夫先生に次いで、三代目会長として昭和43年より62年までの19年間にわたり、県柔道界をリードされてきました。

この間、全日本柔道連盟理事評議員、東海柔道連合会常任理事、審議員等の要職を歴任され、柔道の普及発展に尽くされた功績は計り知れません。

県内で生存する唯一人の九段の先生を喪う悲しみは言い知れないものがありますが、謹んでご冥福をお祈り申し上げるとともに、そのご遺徳を継承すべく精進、努力していくことを靈前に誓いたいと思います。

訃報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

平成11年2月3日逝去

佐久田昌一先生

県柔道協会顧問 四段

元県教育長

平成11年11月29日逝去

脇谷正男先生

県柔道協会顧問 五段

静岡県柔道整復師会名誉会長

事務局だより

◆2003年NEW!!わかふじ国体まで、あと3年を余すのみ。柔道しずおかの面目にかけても大成功させたいと会長以下懸命に取り組んでいます。

国体基金も皆様の御協力により着実に成果をあげてきていますが、さらに今一つ幅広い浸透をお願いしたいと思います。

各地区毎取り組んでいますので、平成11年度分まで未だ釀出が滞っている団体・役員は各地区会計までよろしく協力願います。

◆静岡県柔道協会創立50周年記念誌「翔け柔道しずおか」(頒価五千円)をお求めの方は、各地区事務局までご連絡ください。

◆公認審判員の服装(審査服・ネクタイ・エンブレム等)についての取り扱いの問い合わせは、各地区事務局に。

◆二〇〇〇年の全柔連登録は、年度の初め(4月)にお早めにお願いたします。

◆各種大会の申し込みが期限内に合わない場合が多く、困っています。締切り期日厳守にご協力ください。

柔道の指導者必読！ 全柔連医科学委員会編



「柔道の傷害予防と対策」

●定価/500円(税別) ●A5判
●50冊以上定価の1割引(送料別除)

本書は、平成七年に雑誌「柔道」(講道館発行)に連載した「柔道におけるケガの予防と対策」を中心として編集しました。「柔道に際して起こる身体の各部位のケガ(外傷)に対する予防法と対処法について、またケガからの復帰方法やテーピングについて、さらに「柔道」を行う人々に必要な医学的知識などについて、簡単に解説してあります。

静岡県柔道教室

正しい基本を学べ

— 高木・正木先生を迎えて —

平成11年9月18日(土)、19日(日)二日間にわたって、県立静岡商業高校武道場を会場に、「静岡県柔道教室」が開かれた。主催は全日本柔道連盟、(株)総合警備保障、県教委、県体協、静岡新聞・SBS静岡放送が後援し、県協会主催で行われたものである。

講師には、高木長之助、正木嘉美先生をお迎えし、全柔連より八島正義、黒田正人先生、総合警備保障より上野敬史、池谷和恵、高居育夫氏が親しく会場に見えられ、声援を送って下



熱心に指導にあられる高木講師

さった。参加者総数45名(うち女性87名)。県下各地より中学生、高校生、更にはその指導者たちが続々と集まり、残暑なお厳しい最中にもかかわらず熱心に受講した。内容は、立ち技の実技指導が中心で、中学生と高校生を別にして、両講師が一日目・二日目と交互に担当する形で行われた。

高木先生は、組み手の基本から始めて、崩し、作り、掛けのポイントを、大外刈りを中心に

ユーモアたっぷり、実にわかりやすく説明して下さった。

正木先生は、日常生活の箸の持ち方を例に出して、いかに初歩的段階での正しい習慣づけが大切かを説かれ、得意技の払い腰の秘訣を説得力ある解説と実技で示してくださった。

受講生たちは、高名な両先生の貴重な体験談に熱心に耳を傾け、冴えきった模範技に目を輝かして接し、なにより勉強になったことと思う。

また、数十名に及ぶ県下中・

高校の指導者の先生たちも全員柔道衣となり、生徒たちに交じって指導を受け、汗を流している姿が印象に残った。日頃の指導の至らぬ点を謙虚に反省するところから、新たな強化策もはじめて見えてくるという点でも大きな収穫になったのだと思う。

最後に、こうした講習会成功の陰には、多くの役員のお骨折りのあったことを改めて感謝したいと思う。

